

プログラム

10月31日(金)

開会の辞

8:45～8:50

一般演題Ⅰ 『胃、食道』

8:51～9:27

座長：梅垣 英次（神戸大学大学院医学研究科 消化器内科学分野）
佐藤 宏（同志社女子大学 薬学部）

O1-1 胃粘膜上皮バリア機能調節におけるワサビ受容体TRPA1の役割

¹城西国際大学薬学部 薬理学研究室、²京都薬科大学 薬物治療学分野

○堀江 俊治¹、松本 健次郎²、田嶋 公人¹

O1-2 急性壊死性食道炎発症リスク因子の検討

¹慶應義塾大学医学部 内科学(消化器)、²東京都済生会中央病院 内科

○岩崎 栄典^{1,2}、松崎 潤太郎^{1,2}、鈴木 秀和¹、中澤 敦²、正岡 建洋¹、金井 隆典¹、
塚田 信廣²

O1-3 H.pylori陽性早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の潰瘍治療
-1w除菌治療+7w rebamipide投与とproton pump inhibitor 8w投与との
前向き比較試験-

大阪医科大学 第二内科

○竹内 利寿、小嶋 融一、樋口 和秀

一般演題Ⅱ 『大腸』

9:28～10:04

座長：加藤 伸一（京都薬科大学病態薬科学系 薬物治療学分野）
大島 忠之（兵庫医科大学内科学 消化管科）

O2-1 当院における腸管ペーチェット病患者に対するアダリムマブの臨床成績

名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器代謝内科学

○谷田 諭史、塚本 宏延、尾関 啓司、片岡 洋望、神谷 武、城 卓志

O2-2 デキストラン硫酸ナトリウム誘起大腸炎の病態におけるセロトニン/5-HT₃受容体の関与

京都薬科大学病態薬科学系 薬物治療学分野

○内海 大知、松本 健次郎、天ヶ瀬 紀久子、加藤 伸一

02-3 低線量放射線の長期被曝がマウス大腸化学発がんに及ぼす影響

¹筑波大学医学医療系 日立社会連携教育研究センター、²国立がん研究センター
○谷中 昭典¹、武藤 倫弘²

一般演題 III 『IBD』

10:05 ~ 10:41

座長：佐々木誠人（愛知医科大学 消化器内科）
市川 尊文（北里大学医療衛生学部 病態生化学）

03-1 Terminal Restriction Fragment Length Polymorphism法によるマウス腸内細菌叢の解析 – DSS腸炎時の変化 –

¹愛知医科大学消化器内科 消化管部門、²国際医療福祉大学熱海病院

○野田 久嗣¹、佐々木 誠人¹、舟木 康¹、小笠原 尚高¹、飯田 章人¹、増井 竜太¹、
岡庭 紀子¹、山口 純治²、春日井 邦夫¹

03-2 2,4,6-Trinitrobenzenesulfonic acid (TNBS) 惹起ラット大腸炎における睡眠障害と Corticotropin releasing factor (CRF) との関連

株式会社明治 研究本部 食機能科学研究所

○内田 勝幸

03-3 大腸炎モデルラットの臓痛覚過敏状態におけるTransient Receptor Potential Melastatin 2チャンネルの関与

¹京都薬科大学病態薬科学系 薬物治療学分野、²城西国際大学薬学部 薬理学研究室

○松本 健次郎¹、田嶋 公人²、天ヶ瀬 紀久子¹、加藤 伸一¹、堀江 俊治²

一般演題 IV 『酸化ストレス』

10:42 ~ 11:18

座長：長崎 幸夫（筑波大学）

半田 修（京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学）

04-1 水浸拘束ストレス惹起胃粘膜傷害に対する*N,N'*-dimethylthioureaの予防効果

¹藤田保健衛生大学医学部 化学、²藤田保健衛生大学 第2教育病院 内科

○八代 耕児¹、太田 好次¹、小林 隆²、芳野 純治²

04-2 レドックスナノ粒子の経口投与による炎症誘起化学発生大腸がんの治療効果

¹筑波大学 数理物質科学研究科、²筑波大学 フロンティア医科学、³NIMS・MANA

○長崎 幸夫^{1,2,3}、Vong Long Binh¹、吉富 徹¹、松井 裕史²

04-3 低酸素環境応答性新規抗がん剤の開発

¹筑波大学 数理物質科学研究科、²筑波大学大学院 人間総合科学研究科、³NIMS-MANA

○池田 豊¹、長崎 幸夫^{1,2,3}

ランチョンセミナー | 『GERD の最新トピックス』

11:30 ~ 12:30

座長：屋嘉比康治（埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科）
共催：アストラゼネカ株式会社・第一三共株式会社

LS1 PPI抵抗性GERDに対する診療の実際

愛知医科大学 消化器内科

○春日井 邦夫

評議員総会

12:40 ~ 13:20

特別講演 |

13:30 ~ 14:30

座長：竹内 孝治（京都薬科大学）

SP1 私の歩んだ潰瘍学の展開

国際医療福祉大学

○北島 政樹

シンポジウム | 『ドラッグリポジショニング』

14:50 ~ 17:20

座長：水島 徹（慶應義塾大学 薬学部分析科学講座）
渡辺 俊雄（大阪市立大学 消化器内科）

緒言 水島 徹（慶應義塾大学 薬学部分析科学講座）

S1-1 疾患ネットワークとドラッグリポジショニング

東京医科歯科大学 難治疾患研究所 生命情報学

○田中 博

S1-2 GRIP - a multi-pronged approach based drug repurposing platform to extract the extra value from failed compounds

Vice President, GVK Biosciences Private Limited

○Sreeni Devidas

S1-3 既存薬を用いた癌幹細胞標的治療の考案

慶應義塾大学医学部 先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門

○佐谷 秀行

S1-4 レバミピドのリポジショニング ～胃潰瘍・胃炎治療剤からドライアイ治療剤へ～

大塚製薬株式会社 赤穂研究所

○浦島 博樹、中嶋 英雄、春田 淳平、田中 直美、香川 陽人、伊藤 進策、伊藤 紅仁、竹治 康広、篠原 久司

S1-5 硫酸亜鉛による炎症性腸疾患治療の可能性

¹京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学、

²京都府立医科大学大学院医学研究科 生体食品機能学講座

○東村 泰希^{1,2}、内藤 裕二¹、高木 智久¹、水島 かつら¹、吉川 敏一²

S1-6 ドラッグリポジショニングによる大腸がん予防

国立がん研究センター研究所 がん予防研究分野

○武藤 倫弘

イブニングセミナー

17:25～18:35

『ヘリコバクター・ピロリ除菌の新たな展開』

座長：城 卓志（名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器代謝内科学）

有沢 富康（金沢医科大学 消化器内科学）

共催：エーザイ株式会社

ES1 国民総除菌時代における*Helicobacter pylori*除菌治療とは？－傾向と対策－

浜松医科大学 第一内科

○杉本 光繁

ES2 *H. pylori* 感染と内視鏡的胃炎 ～「胃炎の京都分類」～

川崎医科大学 消化管内科学

○鎌田 智有

特別発言 樋口 和秀（大阪医科大学 第二内科）

会員懇親会

19:00～21:00

会場：芝パークホテル 別館 2F 『ローズルーム』

11月1日(土)

モーニングセミナー

8:40～9:20

『炎症性腸疾患における血球成分除去療法の有用性』

座長：日比 紀文（北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター）

共催：株式会社 JIMRO

MS 生物学的製剤時代における血球成分吸着除去療法の有用性

慶應義塾大学医学部 内視鏡センター

○長沼 誠

一般演題 V 『NSAIDs』

9:30～10:06

座長：中島 典子（日本大学 消化器肝臓内科）

高木 智久（京都府立医科大学 消化器内科）

O5-1 胃幽門腺粘液細胞における粘液開口放出に対するindomethacinの二つの効果：
PGE₂/EP4の抑制とAA/PPAR α の活性化

大阪薬科大学薬学部 薬物治療学II研究室

○武村 菜木、田中 早織、高野 美菜、島本 史夫

O5-2 インドメタシンによるマウス消化管粘膜損傷に及ぼす食餌の影響

同志社女子大学薬学部 病態生理学研究室

○佐藤 宏、漆谷 徹郎

O5-3 NSAIDs起因性小腸傷害におけるインフラマソームの活性化機構

大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学

○大谷 恒史、渡辺 俊雄、東森 啓、武田 翔伍、灘谷 祐二、谷川 徹也、富永 和作、
藤原 靖弘、荒川 哲男

一般演題 VI 『機能性消化管障害』

10:07 ~ 10:43

座長：堀江 俊治（城西国際大学薬学部 薬理学研究室）
浅野 帝太（慶應義塾大学薬学部 分析科学講座）

O6-1 セロトニンは小腸上皮細胞透過性を増加させる

京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科

○堀江 秀樹、半田 修、間嶋 淳、小野澤 由里子、東村 泰希、上原 有紀子、鎌田 和浩、
堅田 和弘、内山 和彦、高木 智久、内藤 裕二、吉川 敏一

O6-2 大建中湯のラット胃粘膜血流の増大作用：温度感受性チャネルTRPV1およびTRPA1の役割

城西国際大学薬学部 医療薬学科 薬理学研究室

○田嶋 公人、堀江 俊治

O6-3 幼少期ストレスが成人期の腸管神経システムと大腸運動機能へ与える影響

大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学

○藤川 佳子、富永 和作、谷川 徹也、渡辺 俊雄、藤原 靖弘、荒川 哲男

一般演題 VII 『その他の基礎的研究』

10:44 ~ 11:20

座長：中村 正彦（北里大学薬学部 臨床薬学研究・教育センター 病態解析学）
齋藤 義正（慶應義塾大学薬学部 薬物治療学講座）

O7-1 胃MALTリンパ腫形成におけるsubstance Pの意義：spantide IIの効果

¹北里大学薬学部 臨床薬学研究教育センター 病態解析学、²北里大学 北里生命科学研究所

○中村 正彦¹、高橋 哲史¹、Overby Anders¹、松井 英則²

O7-2 胃がん細胞におけるEZH2阻害薬によるがん抑制マイクロRNAの活性化

慶應義塾大学薬学部 薬物治療学

○日比野 沙奈、齋藤 義正、村松 俊英、木村 真規、齋藤 英胤

O7-3 2型糖尿病モデルマウス誘発結腸癌に対するDPP4選択阻害剤の影響

大阪医科大学 第二内科

○井上 拓也、依藤 直紀、藤原 薫、井口 宗威、岡田 俊彦、能田 貞治、柿本 一樹、
川上 研、阿部 洋介、竹内 利寿、樋口 和秀

ランチオンセミナーⅡ 『Mucosal Lesion へのアプローチ』

11:35 ~ 12:45

座長：荒川 哲男（大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学）

高橋 信一（杏林大学医学部 第三内科）

共催：大塚製薬株式会社

LS2-1 眼表面粘膜に対するムコスタ点眼液の有効性について

東邦大学医療センター大森病院 眼科

○堀 裕一

LS2-2 胃粘膜の炎症と傷害

東京医科大学病院 内視鏡センター

○河合 隆

特別発言 寺野 彰（獨協医科大学）

特別講演Ⅱ

13:00 ~ 14:00

座長：水島 徹（慶應義塾大学薬学部 分析科学講座）

SP2 ナノテクノロジーで創る魔法の弾丸 ～がんの標的治療への挑戦～

東京大学大学院 工学系研究科／医学系研究科

○片岡 一則

シンポジウムⅡ

14:20 ~ 16:40

『臨床現場が求める薬と企業が開発する薬の融合』

座長：鈴木 秀和（慶應義塾大学医学部 内科学（消化器））

谷中 昭典（筑波大学医学医療系 臨床医学域、

筑波大学附属病院 日立社会連携教育研究センター（消化器内科））

S2-1 筋線維芽細胞を標的にした腸管線維化を治療する薬剤の開発

京都府立医科大学 大学医学研究科 消化器内科学

○内藤 裕二、堀田 祐馬、井上 健、高木 智久

S2-2 NSAIDの食道粘膜内PGE2と胸やけ症状への効果

兵庫医科大学内科学 消化管科

○近藤 隆、大島 忠之、山崎 尊久、河野 友彰、豊島 史彦、戸澤 勝之、池原 久朝、
應田 義雄、富田 寿彦、福井 広一、渡 二郎、三輪 洋人

S2-3 炎症性腸疾患の内臓痛覚過敏における冷感受性TRPチャネルの関与
～創薬ターゲットとしてのTRPM8の可能性～

¹城西国際大学薬学部 薬理研究室、²京都薬科大学 薬物治療学研究室、
³株式会社富士薬品 医薬品研究開発本部 研究部 薬理第二グループ

○細谷 拓司^{1,3}、松本 健次郎²、田嶋 公人¹、堀江 俊治¹

S2-4 胃潰瘍を起こしにくい新規NSAID、フルオロロキソプロフェンに関する研究

慶應義塾大学薬学部 分析科学講座

○浅野 帝太、田中 健一郎、水島 徹

S2-5 新規カリウムイオン競合型アシッドブロッカー・ボノプラザンフマル酸塩
(TAK-438) の作用および特長

武田薬品工業株式会社 医薬研究本部 エクストラバリュー創薬ユニット

○稲富 信博

S2-6 創薬におけるPMDAの役割

(独) 医薬品医療機器総合機構 新薬審査第一部
名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学

○神谷 武

総合討論

※会場の皆様からの活発なご討議もお待ちしております。

コメンテーター：井上 拓也 (大阪医科大学 第二内科)

大島 忠之 (兵庫医科大学内科学 消化管科)

齋藤 洋一 (ゼリア新薬工業株式会社 臨床開発第3部)

齋藤 義正 (慶應義塾大学薬学部 薬物治療学講座)

原田 一道 (医療法人社団 はらだ病院)

半田 修 (京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学)

柳町 守 (エーザイ株式会社)

表彰式・閉会の辞

16 : 40